

指導資料

鹿児島県総合教育センター

図画工作 第30号

- 小学校，盲・聾・養護学校対象 -

平成14年10月発行

郷土素材の教材化を通じた図画工作科の学習指導

子どもは、木ぎれ、葉、小石など身近にあるものを人や動物に見立てたり、大きさ、色の違いなどを生かした構成を工夫したりするなど、一つの発想から次の発想へと行きつ戻りつしながら多様な活動を展開する。図画工作科では、このような子どもたちの豊かな感性を生かし、これまでもそれぞれの地域にある身近な素材を適切な教材として活用してきている。

ところで、「生きる力」の育成をめざすこれからの教育では、子どもたちの興味・関心や意欲などを大切にしながら、豊かな体験活動を通じた学習指導を展開し、そのよさや可能性を積極的に見出していくことが求められている。子どもたちの生き生きとした表現及び鑑賞の活動を展開するために、それぞれの地域にある素材を教材として、さらに積極的に活用したいものである。

そこで、本稿では、郷土素材の教材化を通じた図画工作科の学習指導の在り方について述べる。

1 郷土素材(地域素材)のよさ

図画工作科における郷土素材としては、表現及び鑑賞の活動に生かすことができる

薩摩焼きや蒲生和紙など、鹿児島県独特のものも含め、子どもたちが生活している地域に存在する自然の材料や人工の材料等ととらえることにする。

このことを踏まえ、図画工作科における郷土素材のよさをまとめると、次のようになる。

(1) 学習を進める際の基盤となるものがすでに準備されており、創造的な表現及び鑑賞の活動を展開することができる。

ア 郷土素材を教材として取り上げることにより、子どもは日々の生活とのかかわりを感じながら学習することができる。また、素材に対する情報を得やすいため、活用の仕方をいろいろ工夫することができ、創造的な表現及び鑑賞の活動を展開することができる。

イ 身近な素材としてよく知っているので、一般的な教材と比較すると、見たり考えたりする視点を変えるだけで興味・関心を高めやすく、意欲的な表現及び鑑賞の活動が期待できる。

(2) 創造的な表現及び鑑賞の活動を通して、図画工作科の基礎・基本を身に付けることができる。

ア 郷土素材を直接見たり，触れたりするなどの体験を通して，そのよさや面白さを感じ取り，自分の表現及び鑑賞の活動に生かし，実感したり納得したりしながらつくりだす喜びを十分に味わうことができる。

イ 身近にある素材なので，親しみをもって活用することができる。その結果，自分の製作や活動に対して自信をもって取り組むことができる。

(3) 郷土（地域）理解を深め，地域の一員としての自覚を高めることができる。

ア 郷土の文化，伝統などに関する理解が深まるとともに，そのよさを実感し，郷土を愛する心情や郷土を大切にしようとする態度を育てることができる。蒲生和紙の作り方を見学し，実際につくるなどの活動が考えられる。

イ 地域の人々の知恵や思いに触れたり，地域とのかかわりを深めたりすることを通して，地域の一員としての自覚を高め自分が住んでいる地域をよりよくしていこうとする態度を育てることができる。

薩摩焼きの工場を訪れ，そこで働く人の

話を聞いたり作品を鑑賞したりするなど



の活動が考えられる。

2 郷土素材 (地域素材) の教材化について

郷土素材の教材化とは，様々な郷土素材

の中から，その教育的価値を見だし，図画工作科の目標を達成するのに適しているかどうか十分に検討し，指導計画に位置付けることである。

教材化できる郷土素材の条件とその際の留意事項をまとめると次のようになる。

(1) 教材化できる郷土素材の条件

ア 子どもの発達段階に合致し，題材の目標を達成できる素材であること。



イ 子どもたちの興味・関心を高める素材であること。

ウ 子どもたちの身近にあって，できるだけ入手が容易な素材であること。

エ 取扱い（加工等）が簡単で，後始末が容易にできる素材であること。

(2) 郷土素材を教材化するときの留意事項

ア 題材のねらいや学習の内容を明らかにする。

イ 取り扱う郷土素材に対する子どもの意識，経験等の実態を把握する。

ウ 取り扱う郷土素材について，事前に十分な教材研究を行い，子どもが表現及び鑑賞の活動に取り組む時のつまずきや問題点を明らかにする。

エ 子どもたちの発達特性を考慮し，指導計画に適切に配列する。

オ 子どもが安全に造形活動に取り組むことができるよう、活動の場、道具、材料等の安全管理及び安全指導に努める。

代表的な郷土素材としては、次のようなものが考えられる。

	素 材
木材	屋久杉，サツマツゲ，イスノキなどその他（枝葉樹皮実等）
竹	各種の竹，笹，竹皮等
石や土	シラス，軽石，砂，砂利，小石，各種粘土等
織物	薩摩絣，大島紬，薩摩結城等
紙類	蒲生和紙，鶴田和紙等
その他	貝殻，珊瑚，骨等の動物素材等
	薩摩焼き（龍門司苗代川等）
	ガラス（薩摩切子）等 玩具（帖佐人形カラカラ船等）

3 郷土素材（地域素材）を活用した学習指導のポイント

郷土素材を活用した学習指導のポイントとして、次のようなことが考えられる。

(1) 学習のねらいを十分に理解させる。

学習のねらいを理解できないと表現意欲が低下する場合が多いので、グループで郷土素材について話し合わせたり、見学をさせたりして学習のねらいを理解させるようにするとよい。

(2) 子どものイメージを広げる。

子どものもつイメージは、過去の体験量に関連することが多いが、記憶が薄れたり、不鮮明だったりして思い出せないこともある。このような場合は、写真やVTRなどの映像、音声などを媒介としてイメージを

広げさせるようにするとよい。

(3) 多様な発想の方向を選べるようにする。

郷土素材は、形や色などが不ぞろいなものが多いので、構造そのものを変化させてみるといった柔軟な発想の例を示して、多様な発想の方法というものを体験させるようにするとよい。

4 郷土素材（地域素材）を活用した学習指導の構想例 《高学年向け》

(1) 題材名 「鹿児島再発見！僕らのおもしろ美術館」【全8時間】

(2) 題材のねらい

材料などの特徴を生かしながら、進んで豊かな発想や構想をして、計画的に製作することができる。

身近な環境を造形的に構成し、つくりだす喜びを味わうことができる。

(3) 使用する郷土素材

流木，石，軽石，竹，粘土，和紙等

(4) 必要な道具等

金づち，のこ，きり，カッターナイフ
カッターマット，紙やすりなど

(5) 活動の主な内容

本題材は、空き教室等を、子どもたちの鹿児島に対する夢がいっぱい詰まった美術館に変身させようとするものである。

ア 郷土素材のよさを知る。

イ 鹿児島への思いを自分らしい方法で表現する。

ウ 行きつ戻りつする造形活動を楽しみ、郷土のよさを再認識する。

エ お互いの表現のよさ認め、全校児童で分かち合う。

(6)指導計画

過 程	主 な 学 習 活 動	時 間	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価
<p>思いつく</p> <p>発 想</p>	<p>1 空き教室等を見ながら，どんな美術館にするか話し合う。</p> <p>2 郷土素材を触ったり，ビデオを見たりして何をつくるか話し合う。</p> <p>3 学習のめあてについて話し合う。</p> <p>郷土の素材を使って，自分がつくりたいものをつくり，おもしろ美術館を開こう。</p>	1	<p>「郷土素材を使ってつくりたいものをつくり，おもしろ美術館を開こう。」という意欲を喚起するために，参考作品や写真，VTR等を用いて，一人一人の夢が膨らむようにする。</p> <p>《関心・意欲・態度》</p> <p>自分から進んで取り組もうとしている。</p>
<p>構 想</p> <p>つ っ く る</p> <p>製 作</p>	<p>4 つくりたいものを考える。</p> <p>(1) テーマを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和紙を使ったランプシェード ・流木を使ったオブジェ ・貝殻や珊瑚を使ったオブジェ <p>(2) つくり方を考える。</p> <p>5 自分なりの作品をつくる。</p> <p>(1) 郷土素材の特徴やよさを考えながらつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色，大きさのおもしろさ <p>(2) 郷土素材の特徴やよさを味わいながらつくる。</p> <p>6 作品を展示し，美術館をつくる。</p> 	6	<p>つくりたいものへの思いや製作への見通しがもてるようにするために，参考作品コーナーを設ける。</p> <p>《発想・構想》</p> <p>自分が表したい主題に合わせて，製作全体の構想をもつことができる。</p> <p>道具の使い方を掲示したり，接着の仕方を紹介したりして，安全に活動できるようにする。</p> <p>随時，学習カードで進捗状況を確認させる。</p> <p>《技能》</p> <p>素材の特徴を生かして，自分がつくりたいものを思いのままにつくることができる。</p> <p>一人一人の新たな試みや工夫に共感し，賞賛することで，十分に，満足感をもつことができるようにする。</p>
<p>味 わ う</p> <p>鑑 賞</p>	<p>7 できあがった作品を基に，自分がこだわったところや工夫したところなどを紹介し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島よさを知る。 <p>8 学校全体に紹介し，「僕らの美術館」をオープンする。</p>	1	<p>《鑑賞》</p> <p>お互いの作品のよさを認め合うことができる。</p> <p>広報活動や運営などを子どもたちに任せ，達成感を味わわせるようにする。</p>

郷土の豊かな自然や風土と直接向かい合えるような題材を設定することは，子どもが，自分の表現に対して自信をもって取り組むとともに，基礎・基本の確実な定着にもつながる。さらに，郷土への愛情を育てることにもつながるのである。

今後も，豊かな創造活動を展開し，子ども

の感性をより一層高められるような指導を進めていきたいものである。

〔参考文献〕

文部省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』平成 11 年

『新しい教育課程と学習活動の実例(図画工作)』平成 11 年 東洋館出版

編著 板良敦 敏 三澤 正彦

(第三研修室)